

埼玉工場見学会のお知らせ

埼玉工場では主にホンダ様の寄居工場向けに、フリード、ステップワゴン、ZR-Vなどの車体骨格部品を生産しています。ロボット技術やAIによる画像処理技術等を駆使し、極限まで自動化・省人化された大型プレスラインや溶接ライン等の生産ラインをメインにご覧いただけます。

開催概要

見学場所：埼玉工場(埼玉県深谷市)

集合・解散：JR熊谷駅 改札口(バスにて埼玉工場まで送迎いたします。)

※お車等での直接のご来場はご遠慮ください。

開催日程：2024年9月24日(火)午後

内容：概要説明の後、徒歩にて構内をご見学いただけます。

対象者：2024年3月末時点で、当社株式300株以上をご所有の株主様

募集人数：30名程度

参加費：無料(ただし、集合・解散場所までの交通費や宿泊費は各自ご負担ください。)



応募要領

応募方法：同封の「株主様アンケート」に記載の「工場見学会へ出席をご希望される株主様」の欄に必要な事項をご記入の上、ご返送ください。

応募締切：2024年7月31日消印有効

当選発表：応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。当見学にお越しいただくことが確定した株主様へは、9月上旬ごろに詳細を書面にてご案内申し上げます。

※ご応募により当社が取得する個人情報、本工場見学会実施のほか議決権行使に関するご案内や、株主様向けの活動充実のために使用させていただく場合がございます。

お問い合わせ先

株式会社ジーテクト 工場見学会係

電話番号 048-646-3404

9:00～17:00(土、日、当社休日を除く)

前回の工場見学会のご報告

2024年3月19日(火)、研究開発拠点のある羽村地区にて工場見学会を行いました。ホットスタンプの生産ラインや、モーターコア・バッテリーハウジングの実証ラインをご覧いただいたほか、担当役員による当社の開発力・財務戦略に関するご説明、質疑応答を行いました。質疑応答では、株主様から多くのご質問を頂き、社長をはじめとした出席役員よりお答えしました。

●参加された皆様の声(抜粋)●

- ▶EV時代に向けた研究開発の現場を実際に見れたのは勉強になりました。
- ▶常に時代の先を読んで製品開発をし、メーカーに提案しているんだということが分かりました。
- ▶既存製品を徹底的に解析したうえで貴社独特の提案を突き詰めるプレス屋魂に触れたように感じました。

他多数

ご来場誠にありがとうございました。



バッテリーハウジング実証ライン



質疑応答

株式会社ジーテクト

本社

〒330-0854

埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-11-20

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



第13期 株主通信

2023年4月1日～2024年3月31日



株式会社ジーテクト

証券コード：5970



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、心より御礼申し上げます。

2024年3月期は、半導体供給制約の影響もなくなり多くの得意先で生産台数が増加しました。連結売上高は、生産台数増加や材料単価改定、為替影響などがあり、過去最高の3,446億円(前期比9.6%増)となりました。利益につきましては、新機種立ち上げに伴う型設備売上が減少したものの、グローバルでの安定生産による受注生産台数増加に伴って量産売上が増加したことや、為替影響により、営業利益は162億円(同26.5%増)となりました。経常利益は過去最高の189億円(同32.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は132億円(同28.9%増)となりました。

2025年3月期は、得意先の安定した生産を見込んでおりますが、得意先が本格的にEVを上市する前段階にあたるため機種開発が落ち着き、型設備売上や試作等の非量産売上が横ばい で推移する見込みです。また、中国においては景気減

速の兆しが見られる中で自動車販売の大きな伸びが見込めず、連結売上高は3,460億円(前期比0.4%増)と予想しております。利益につきましては、営業利益は142億円(同12.6%減)、経常利益は144億円(同23.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は100億円(同24.5%減)と計画しております。

自動車業界は100年に一度の変革期にあって、当社を取り巻く環境も大きく変化しています。特に電動化は、中国を中心に驚異的なスピードで進んでおり、この流れは今後も続くと認識しております。目まぐるしく変化するビジネス環境に対して、当社は「ジーテクトの4つの競争力」を明確化し、その強化に取り組んでいます。4つの競争力とは、「開発力」、「技術力」、「財務力」、そして「グローバル拠点」です。経営も自動車も、この4つが高次元でバランス良く揃わなければ、全力で走ることができません。道が険しくとも、当社は常に四輪駆動で全速力をもって走り続けます。

ギガキャストが一部で採用されていますが、当社は開発力・技術力によって「大型一体化戦略」を推し進め、完成車メーカーの選択肢を広げることで受注につなげます。「大型一体化戦略」とは、これまで複数の部品を組み合わせていた車体部品を一体成形することで一部品とし、部品数・工程数を削減するというものです。当期は、アルセロール・ミッタル社とのライセンス契約や、日本製鉄株式会社との連携など、戦略を実現させるための施策を進めてきました。お客様にとって最適な構造・技術を提案することで受注を拡大します。

2024年3月期の期末配当金は、直近発表から1円増配し35円としました。年間では中間配当金32円と合わせ、前期比9円増配の67円としました。2025年3月期は中間・期末配当金ともに1株につき35円、年間で3円増配の70円を予定しております。2031年3月期におけるDOE(株主資本配当

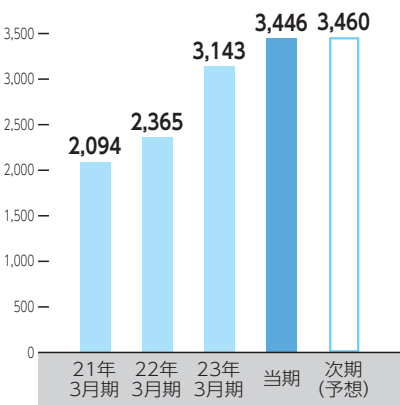
率)3.0%達成を目標に、今後も安定的な配当を継続すること で、株主の皆様へ還元してまいります。

当社のビジョンは、「情熱と革新を融合させ、人とクルマと地球のより良い未来をかたちづくる」です。今後も世界情勢、世界経済は不安定な状況が続きます。この不確実な時代に重要なのは、先見性とスピード感ある判断力だと考えます。あ

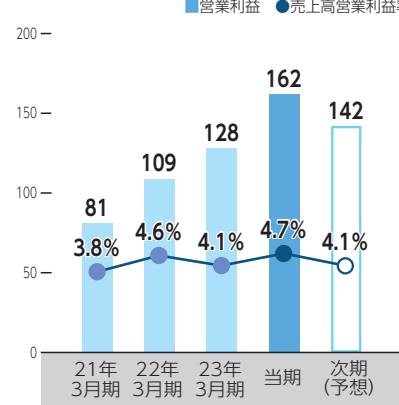
らゆるステークホルダーからその存在を期待される企業を目指し、引き続き攻めの経営を行ってまいります。株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年6月

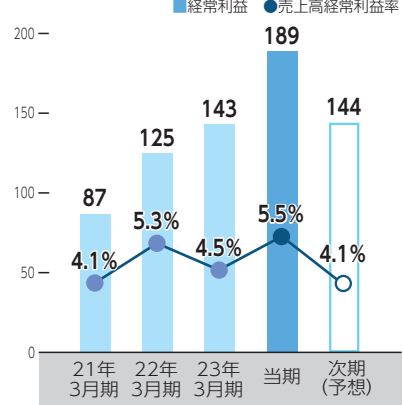
売上高 (億円)



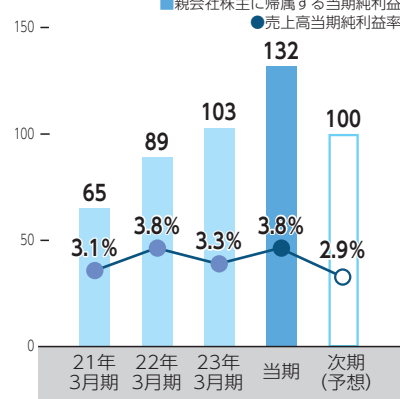
営業利益／売上高営業利益率 (億円)



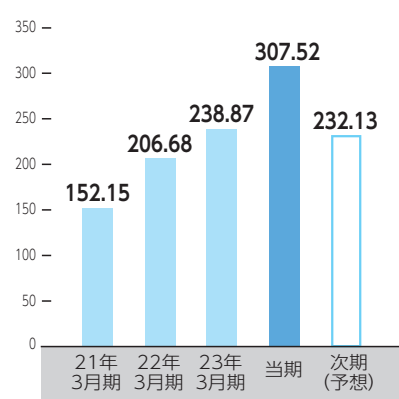
経常利益／売上高経常利益率 (億円)



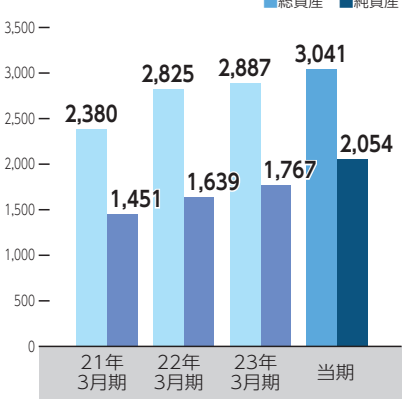
親会社株主に帰属する当期純利益／売上高当期純利益率 (億円)



1株当たり当期純利益 (円)



総資産 純資産 (億円)



世界有数の鉄鋼メーカーと特許使用契約を締結

当社は、粗鋼生産量世界第2位である欧州の鉄鋼メーカー、アルセロール・ミタル社（AM社）と日本国内向けにアブレーション技術の特許ライセンス契約を締結しました。アブレーションとは、ホットスタンプによる大型一体化製品の加工に必要な不可欠な技術です。

ホットスタンプ用の鋼板は特殊なメッキ処理が施されており、鋼板同士を溶接するためには溶接部のみ部分的にメッキを除去する必要があります。このメッキを効果的に除去する技術がアブレーションで、AM社の特許技術です。当社はAM社からライセンスを取得することで、国内向けにホットスタンプを活用した大型一体化製品の提案が可能となりました。

ホットスタンプ大型一体化(接合)に必要なライセンス取得

【製造プロセス(例：フロントアリング)】



特許ライセンス契約を締結

国内向けにアブレーション技術の使用許諾契約を締結



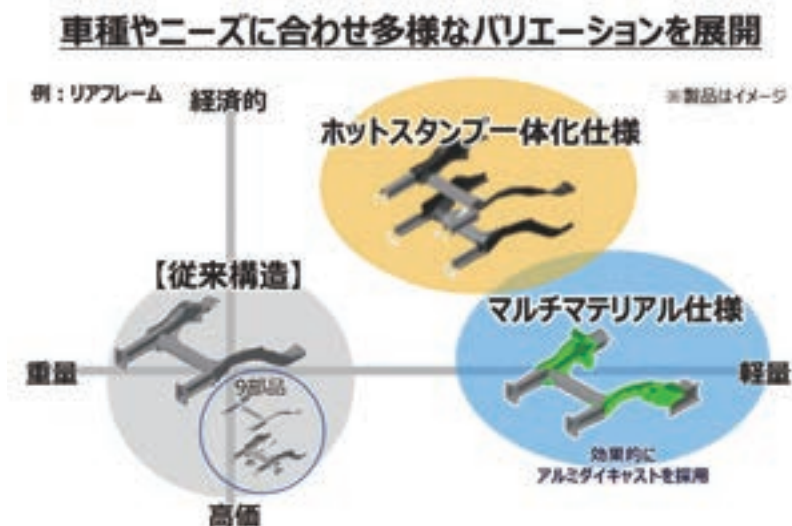
ホットスタンプとは
<https://www.g-tekt.jp/tecnology/lightweight.html>



大型一体化製品のバリエーションを増やし、幅広いニーズに対応

当社は、お客様の様々なニーズに対応すべく、大型一体化製品のバリエーションを展開します。一昨年より株式会社アーレスティと共同で開発しているマルチマテリアル仕様の製品は、アルミダイキャストを効果的に採用し、鉄とバランスよく組み合わせた製品で、現在お客様に提案中です。この製品は、「ギガキャスト」と異なり現有設備で生産でき、かつ部品数が少なく軽量である点でお客様に貢献できます。

このマルチマテリアル仕様に加えて、AM社と特許使用契約を締結したことで、ホットスタンプを活用した大型一体化製品をラインナップに加えます。これらの製品は、EVはもとより全ての車両に対して有効であり、お客様が求める経済性と軽量化のニーズに幅広く対応できます。お客様にとっての選択肢を広げるような提案を積極的に行っていくことで、確実に受注拡大を図ります。

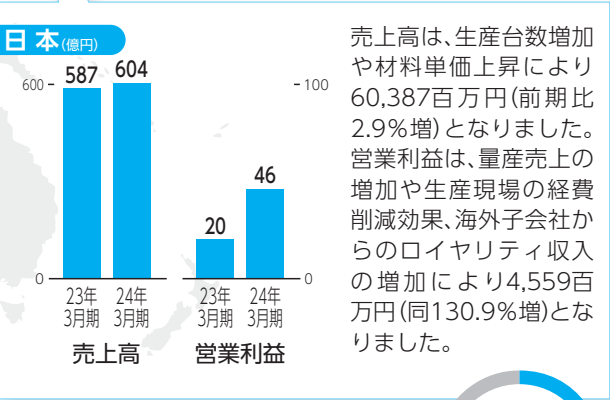
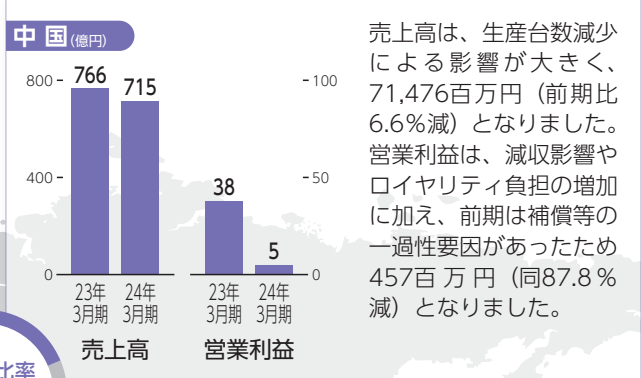
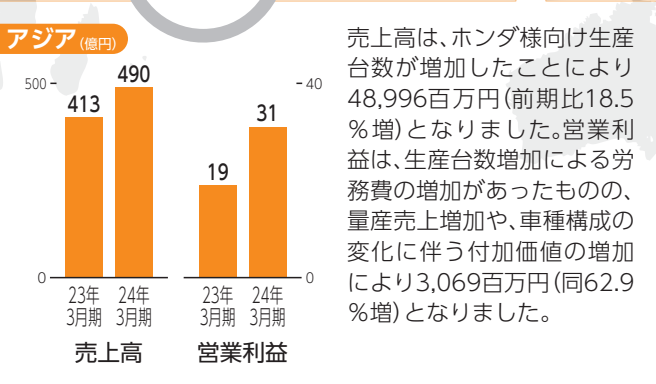
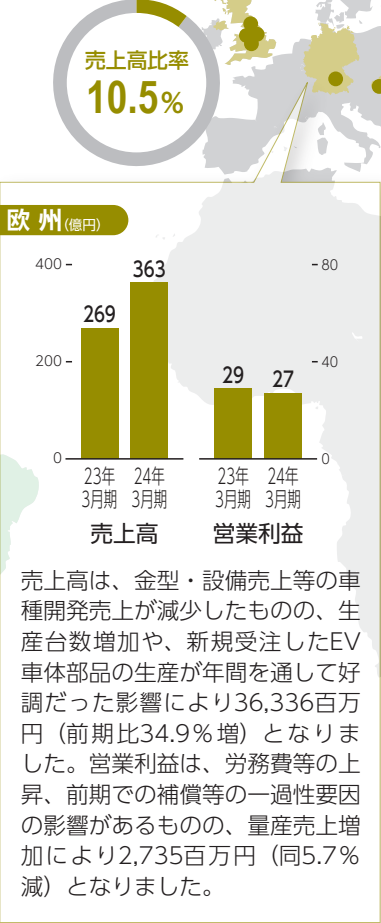
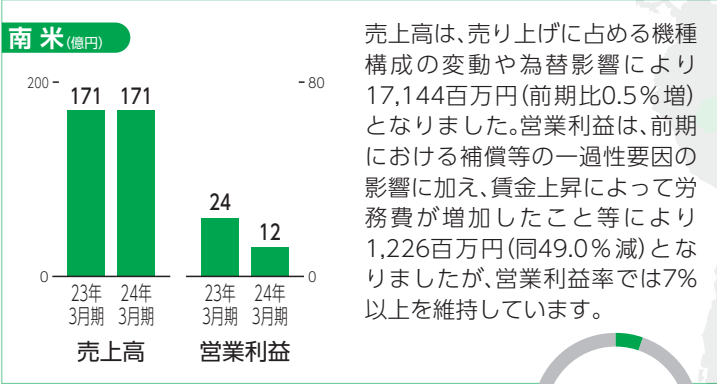
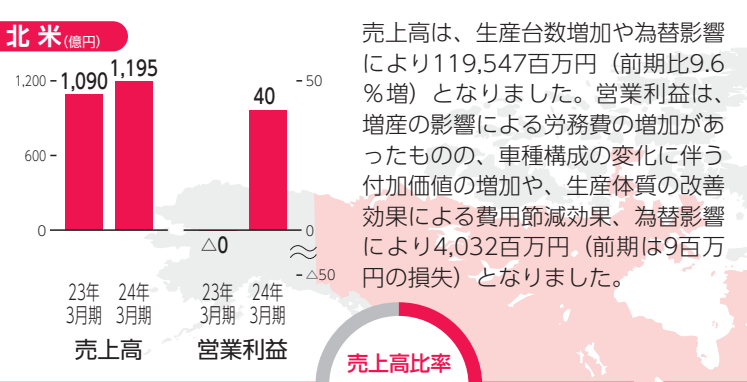


CDPの環境情報開示において「気候変動A-」企業に認定

当社は、気候変動分野への取り組みと情報開示の透明性が認められ、CDPより2023年度の「気候変動A-」評価（リーダーシップレベル）を獲得しました。CDPIは、企業や自治体の環境情報開示のための世界的なシステムを有する国際的な非営利団体で、気候変動や水資源、森林保護などへの取り組みに関する質問書を送付・収集して、AからD-の8段階のスコアで評価し、企業等の環境情報を開示しています。CDPを通じた情報開示により、当社は、透明性の更なる向上に向けた金融機関や顧客、政策担当者からの要請に応えられるように備えています。

当社は、持続可能な脱炭素社会の実現に貢献するため、「2050年度カーボンニュートラル」を目指して温室効果ガスの削減目標を設定・開示し、生産性向上、省エネルギー性改善、再生可能エネルギー活用を推進しています。こうした取り組みが、「気候変動A-」評価につながったと考えています。今後も気候変動問題に対する取り組みと情報開示を積極的に行い、持続可能な脱炭素社会の実現を目指してまいります。





トピックス

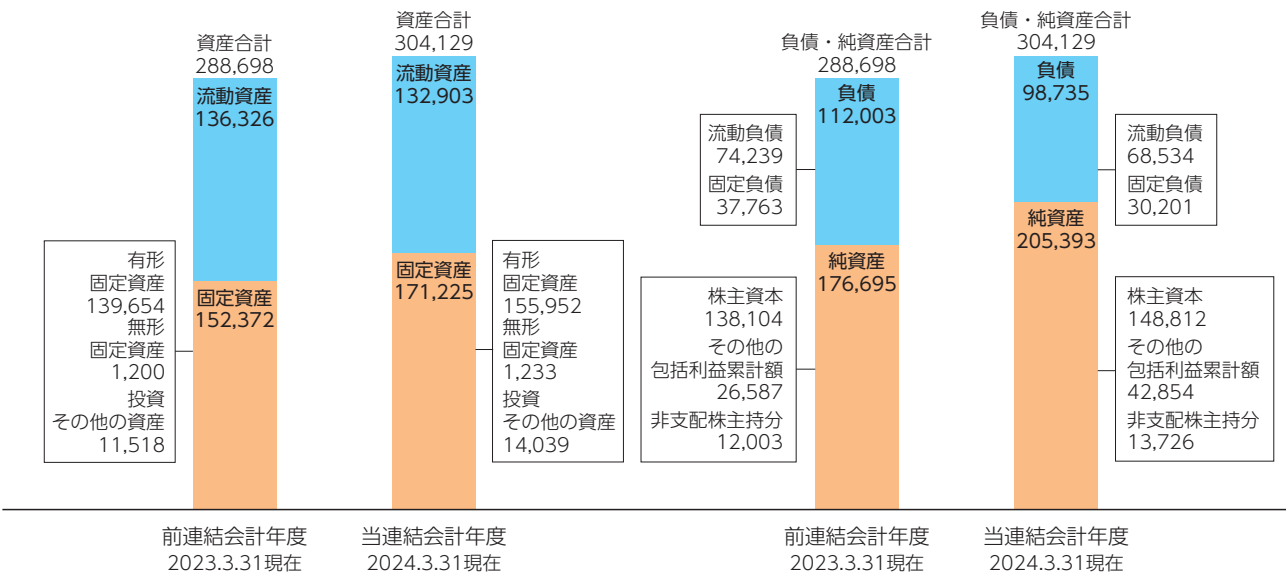
イギリスG-TEM社 能力拡大投資

当社イギリス子会社G-TEM社において、受注の増加及び今後の更なるビジネス拡大に向けて、工場溶接エリアの拡張及びプレス機の導入を主とする能力拡大投資を行うことといたしました。

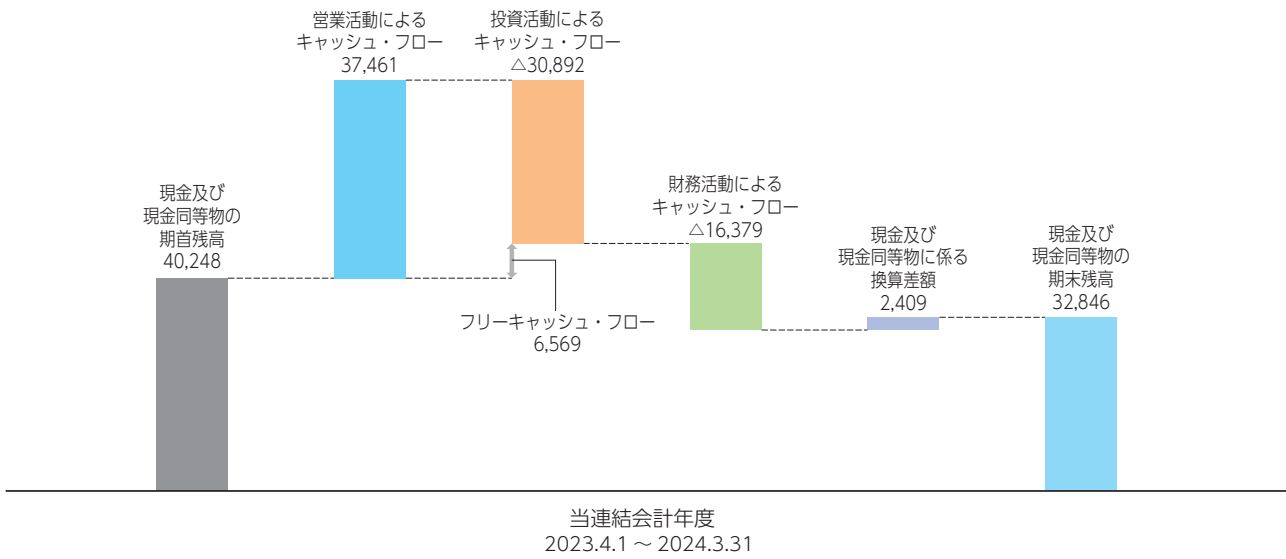
G-TEM社では、欧州・日系メーカーを客先とする車体部品の生産活動を行っております。今回の工場拡張は、イギリスにおける欧州メーカーのEV増産を受けて、今後不足が見込まれる生産能力を增强することにより、欧州地域における更なる収益拡大と事業成長を図ることを目的とするものです。

当社の欧州ビジネスの成長にご期待ください。

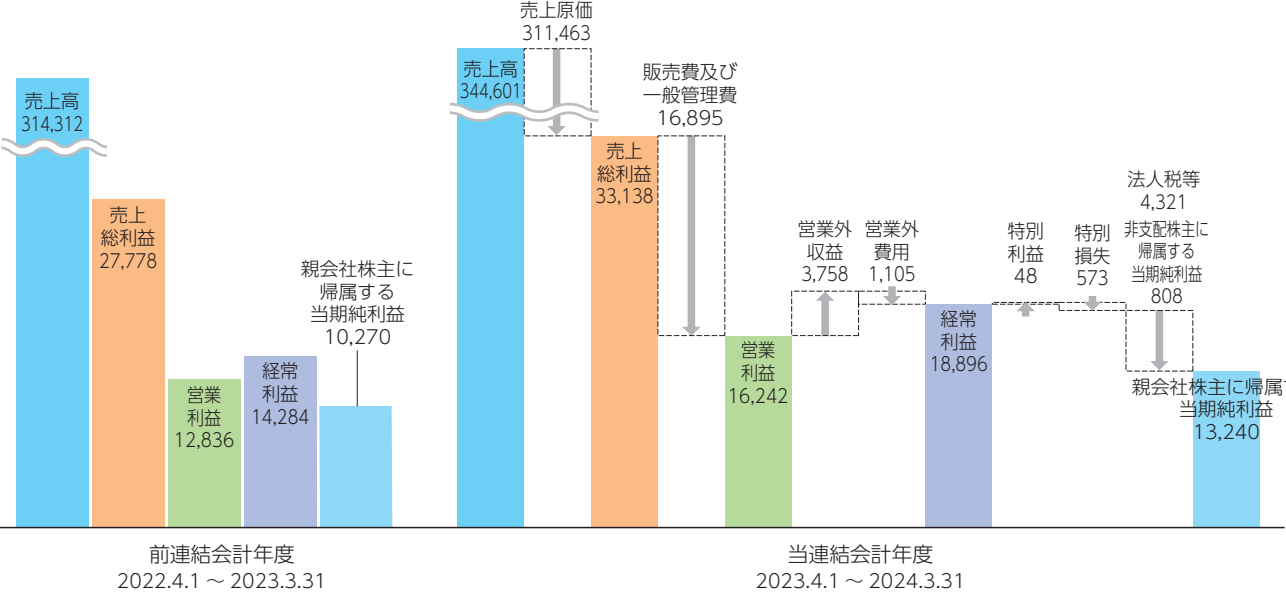
連結貸借対照表 (要旨) (百万円)



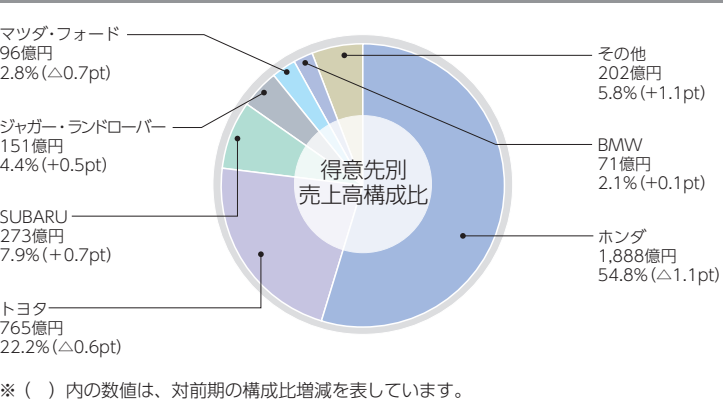
連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) (百万円)



連結損益計算書 (要旨) (百万円)



得意先別売上高構成比



ホンダ様は、中国地域を除き生産台数が前期比で増加したことで、割合はやや低下したものの、売上高が増加しました。

トヨタ様は、中国での生産台数減少があったものの、北米で生産台数・売上高が増加しました。

SUBARU様は、日本・北米ともに前期比で生産台数・売上高が増加しました。

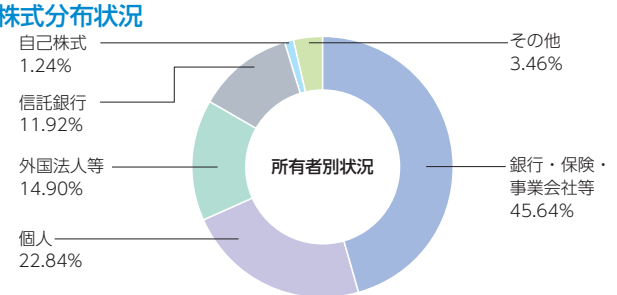
欧州系のジャガー・ランドローバー様は、新機種の立ち上がりがあったこともあり、生産台数・売上高が増加しました。

会 社 概 要 (2024年3月31日現在)	
■ 社 名	株式会社ジーテクト
■ 創 業	1947年4月1日
■ 設 立	1953年11月4日
■ 資 本 金	4,656,227,715円
■ 代表取締役社長	高尾 直宏
■ 事 業 内 容	車体部品、トランスミッション部品の製造販売、金型・溶接設備等の製作販売
■ 拠 点	国内10拠点、アメリカ5拠点、カナダ1拠点、メキシコ2拠点、ブラジル1拠点、イギリス4拠点、ドイツ1拠点、スロバキア1拠点、中国6拠点、インド1拠点、タイ3拠点、インドネシア1拠点

取 締 役 及 び 監 査 役 (2024年6月21日現在)	
代表取締役社長 社長執行役員	高 尾 直 宏
取 締 役 専 務 執 行 役 員	瀬 古 浩 技術本部長
取 締 役 常 務 執 行 役 員	廣 瀧 文 彦 営業本部長
取 締 役 常 務 執 行 役 員	柿 崎 明 北米地域本部長、JIC取締役社長
社 外 取 締 役	笠 松 啓 二
社 外 取 締 役	稲 葉 利江子 津田塾大学教授

常 勤 監 査 役	田 村 依 雄
常 勤 監 査 役	川久保 喜 章
社 外 監 査 役	新 澤 靖 則 税理士
社 外 監 査 役	北 村 康 央 弁護士

株 式 の 状 況 (2024年3月31日現在)	
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	43,931,260株
株主数	17,877名



大株主 (上位10名 敬称略) (2024年3月31日現在)		
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
本田技研工業株式会社	13,035,098	30.04
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,177,800	7.32
株式会社ケー・ピー	2,200,800	5.07
T Kホールディングス株式会社	2,194,344	5.06
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,561,766	3.60
吉田知広	1,317,800	3.04
高尾直宏	1,286,576	2.97
菊池俊嗣	905,901	2.09
岡三証券株式会社	893,600	2.06
RE FUND 107-CLIENT AC	688,100	1.59

(注) 1. 持株比率は自己株式545,197株を控除して計算しております。
2. 自己株式には、当社役員への業績連動型株式報酬として株式会社日本カストディ銀行(信託口) が所有する当社株式307,166株を含んでおりません。

株主メモ	
事 業 年 度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確 定 日	3月31日
中間配当金受領株主 確 定 日	9月30日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
株 主 名 簿 管 理 人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特 別 口 座 の 口 座 管 理 機 関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL.0120-232-711 (通話料無料)
同 連 絡 先	
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所(プライム市場)
公 告 の 方 法	当会社の公告は、電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

「株主様アンケート」

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

前回実施のアンケートに、1,294枚(回収率7.1%)のご回答をいただきました。お忙しい中ご協力いただき、誠にありがとうございました。
(調査期間 2023年12月1日～2024年1月5日)

243名の株主様から「ご意見・ご感想」を頂きました。その中のいくつかを抜粋して掲載いたします。

主なご意見・ご感想

【株価・業績・配当・優待について】

2031年3月の目標、売上4,000億円達成に向けて是非とも頑張ってください、PBR改善、株主還元の拡充など、今後の経営にも期待しています。

連続増配に期待しています。

優待変更は残念でしたがDOE3.0%に期待します。

【情報発信について】

EV化への対応と成長戦略の関係についてIRを通じて社会に積極的に発信してほしいです。

地方でも、開発や戦略に関する説明を聞きたいです。

事業内容の理解のために、工場見学の動画をホームページで公開してくれるとうれしいです。

ジーテクトレポート(統合報告書)発行のご案内

当社は、財務情報・非財務情報の両面をステークホルダーの皆様にご報告するため、ジーテクトレポート(統合報告書)を発行しております。本レポートでは、当社の価値創造へのより具体的な取り組みや、サステナビリティマネジメントについてご紹介しております。



ジーテクトレポート2023は当社ホームページにて掲載しておりますので、ぜひご覧ください。
当社ホームページ：ジーテクトレポートのURL
https://www.g-tekt.jp/ir/library/integrated_report.html



株 主 還 元

2024年3月期は、中間配当金1株当たり32円、期末配当金1株当たり35円とし、年間では、前期比9円増配の1株当たり67円といたしました。
2025年3月期は、中間・期末配当金ともに1株当たり35円とし、通期で70円を予定しております。

1株当たり年間配当金 (円)

年度	1株当たり年間配当金 (円)
2014年度	24
2015年度	32
2016年度	36
2017年度	39
2018年度	46
2019年度	48
2020年度	50
2021年度	56
2022年度	58
2023年度	67
2024年度(計画)	70

9

10